

編輯室の内外

昭和の御代も新歲を迎へて四つになつた、本會も生れて茲に十四歳、本誌も亦齡十一を加ふ、創刊當初から常に五千有餘の讀者を維持しつゝ、今正に讀者七千を越ゆるの盛況は、本誌が世界に於ける權威者たるを表徴するもの、必ずしも自惚ではない。

道路行政と道路技術に關する理論と術の研究、其の民衆化、之を並行して讀者に見えしめ而も手軽く楽しく繕かしめようとすると、こゝろに編者の苦心があると同時に又面白味もある、見て呉れ給へ、近代の創意的全集物を、法律經濟に關するもので本誌の論說研究を引例しないものは無い位だ、其の技術に關するものに至つては、本誌の轉

載を許したものの頗る多い、以て本誌の眞價を知るに足るでは無いか、こゝ言へば年始の一杯機嫌と言はれるかも知れない、が併し事實は仕方が無からう。従つて編輯には深甚の注意と細心の用意とを以て方つてゐる積り、時に折角奇與された原稿も遺憾ながら登載しないことがある、併しそれは本誌の權威の爲に、お許を願ひたい。

今茲に新年號の編輯を終るに方つて、往時を追懷し將來に想到するとき、我の辿つた過去が路政に相當貢獻してゐると思へば氣も亦自ら揚る、併し今歳は吾等の積年の主張であつた産業道路の實現期、研究すべく實行すべき多くの問題が投げ與へられ吾等の奮起を促してゐる、其の道路の撰擇問題、民衆的利用の助勢問題、等々と、解決困難であつて又夫れを爲し遂ぐるに面白い

問題である、此細腕、從來のやうに克く此問題を解決し得るやを疑ふ、が併し、夫れは讀者各位の聲援に俟たなければ駄目、我が路政の爲に協力を願つて已まない。(た)

× × ×

本號定價 五十錢
一ヶ年分 金六圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内

發行所 社団法人 道路改良會

發行兼編輯者 小島 效

東京市小石川區諏訪町五六

印刷所 常磐印刷所

印刷者 堀江 關武